

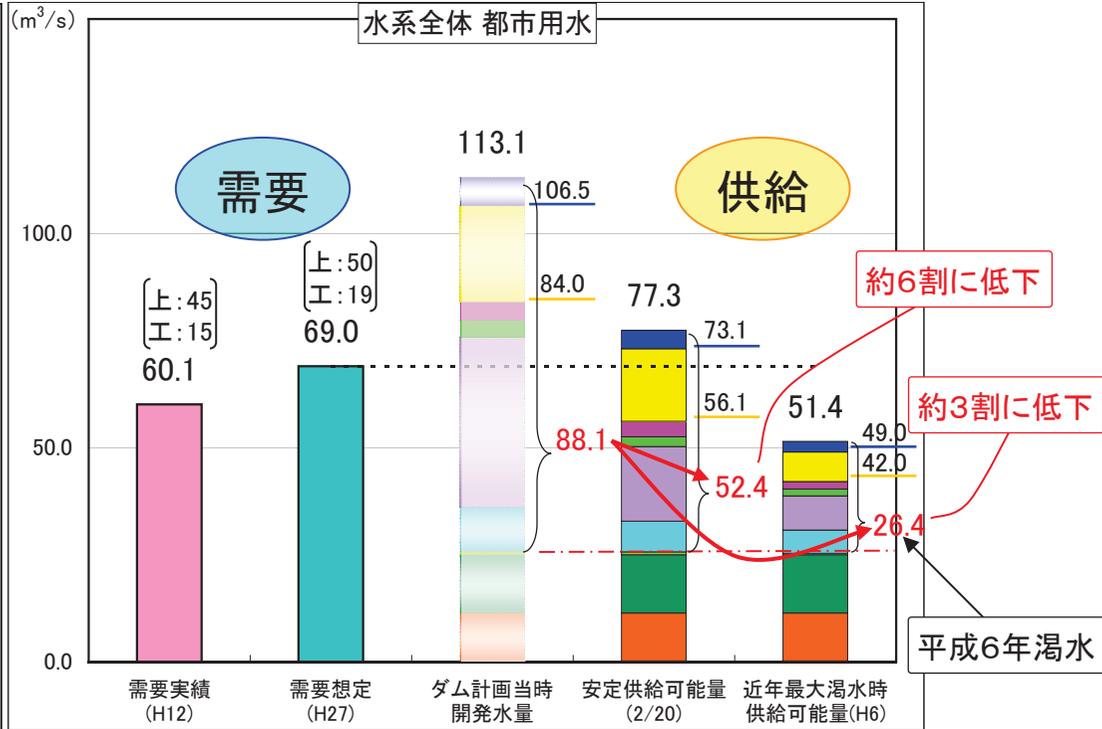
# 資料15:木曽川水系のダムの実力は、近年大幅に低下

○近年の少雨化傾向を踏まえ、昭和54年～平成10年の20年間の実際の河川流量を用いて、現時点におけるダムの実力を評価すると、ダムによる安定供給可能量は大幅に低下しているのが現実。  
 ○ダム計画当時の開発水量に比べ、現時点のダムの安定供給可能量は、近年20年に2番目の渇水年(2/20)に対して約6割に低下、近年最大渇水(平成6年)では約3割まで低下。

(水資源開発基本計画(第4次計画)の概要:平成16年全部変更)

- 水の用途別の需要の見通し及び供給の目標
  - 水の用途別の需要の見通し
    - 水道用水 :約50m<sup>3</sup>/s } 約69m<sup>3</sup>/s
    - 工業用水 :約19m<sup>3</sup>/s
    - 農業用水 :水量の増加は見込まれない
  - 供給の目標
    - 計画当時の流況を基にすれば :約113m<sup>3</sup>/s
    - 近年の20年に2番目の渇水年の流況を基にすれば :約77m<sup>3</sup>/s
- 供給の目標を達成するため必要な施設の建設に関する基本的な事項
  - 徳山ダム建設事業
  - 愛知用水二期事業
  - 木曽川水系連絡導水路事業 ※

※平成20年一部変更により追加



【凡例】

徳山ダム	長良川河口堰	味噌川ダム	阿木川ダム	岩屋ダム
牧尾ダム	三重用水	自流	地下水	その他
一日最大取水量(実績)	一日最大取水量(想定)			

木曽川水系における水資源開発基本計画 都市用水(水道用水及び工業用水)の県別・用途別需給想定一覧表(H16.5)を基に作成  
 ※ダムの実力を評価するにあたっては、実際の日々の河川流量に対して、ダムの供給量を段階的に低下させていき、10年に1回の渇水においても安定的に供給できる量を算出。